

「万物の上に、万物を通して、すべての内にある神」

2011.9.11

すべてのものの父である神は唯一であって、すべてのものの上にあり、
すべてのものを通して働き、すべてのもののおられます。

One God and Father of all, who is above all, and through all, and in all.
(エペソ書 4 の 6)

この短い文には、重要なことが簡潔な表現の中に込められている。父なる神は唯一である、このひと言を本当に信じるかどうかで私たちの人生は決定的な違いを生じることになる。どのようなことが生じようとも、その背後に唯一の愛の神がおられるのだ、私たちには不可解であってもすべてを超えたところで愛と真実な神がおられるのだ、と信じることによってこの世のさまざまな問題をのりこえていくことができる。

神はじっとしている神ではない。万物の上にあって支配し、新たな創造をし、また時至れば悔い改めようとしないう悪の力を滅ぼされる。どんな人間の強大な権力であっても、それをさらに正義をもって支配しておられるのが神である。

また、すべてのものを通して働く、あるいは全てのものによって神が証しされているとも受け取ることができる。歴史を通して、また自然のいろいろな風物を通して、さらに個々の人間との関わり、よき人だけでなく悪しき人との関わりを通して神は働かれる。

そして、万物の内にある。私たち人間の内に住んで下さることは、主イエスのぶどうの木のとえにおいても繰り返し言われている。「私の内にとどまれ、そうすれば私はあなた方の内にとどまる。」

この一つのことを成就すれば、私たちには何も不満もなく、長寿も短命もどちらでもよくなるだろう。あらゆるよきものの総体である神が私たちの内にいてくださるなら、当然私たちもあらゆるよきものが与えられているという実感を持つであろうから。

この聖句にある神に関する三つのこと(神は万物の上にあり、すべてを通して働き、万物の内にある)、それがあればこの世の問題のすべてを解決に導く道が前途に続いている。

だれでも、いろいろな悩みがある。そのときに、それらあらゆる問題の上に愛の神がおられて御支配されていると信じるようにと導かれる。

また、そうした悩みを引き起こす人間や病気、事故等々、そのことをも通して神が働いておられるのだ、と受け止めることによってそうした問題そのものからすらある種の力を与えられることにつながる。

ここにあげた聖書の言葉を深く受け止め、信じることによってはじめて私たちは、使徒パウロが繰り返すすべてのことに感謝する」というようなめぐまれた状況へと導かれていく。



自然の中から

吉野川 徳島市にて 2011.8.27

これは、徳島県を流れる吉野川です。夕日に照らされて青空に浮かぶ雲は赤みがかって見えます。長さは194km。愛媛、高知、徳島を流れ、香川県には分水しているため、4つの県にその水は流れ、うるおしています。この写真の左側が上流で西の方角、正面は北です。

この写真の位置は、河口から5キロほど上流にありますが、川幅は1キ

ロほどあります。そして、水はこのように満々とたたえられています。

私は、今までに日本の九州から北海道まで各地のキリスト教集会に参加のため、多くの府県を車で移動することが多かったため、いろいろの川もみてきましたが、この吉野川ほど水量がなみなみとある川は記憶にありません。

青い空、そこに浮かぶ白い雲、そして写真には見えないけれども、その雲をあかく染める西方の夕日、そして水の満ちる流れ、これらは、繰り返し接している私にとってもいつも新たなひろがりを感じてくれます。

これらの自然の光景は、それと対照的に、狭く、汚れがあり、いつも満たされずにいて、魂の渇きを覚えている人間の姿をも思い起こされ、人間がどのような状態へと進むべきなのかを指し示してくれるのです。

この光景は、私たちに、深く青い大空からはその無限の広やかさを、輝く雲から光を、そして乾いた心をうるおし、そこから周囲へと流れ出ていくほどに豊かな命の水の流れを見るものに語りかけています。

そして私たちが主に深く結びつくとき、たしかにそのようなよきものが部分的であれ、私たちの魂のうちに静かに伝わってくる思いがするのです。(写真、文とも T.YOSHIMURA)